

地域団体と連携して行う街なかキャンパスでの評価

Evaluation at Machinaka campus carried out in cooperation with local organizations

川田 博美
Hiromi KAWADA*1

名古屋女子大学短期大学部
College of Nagoya Women's University

あらまし：教科『地域貢献演習』の目的は、「社会人基礎力」の育成である。それを踏まえて、2013年度からは、「社会人基礎力」をもとにした3つの選択パターンを設定し、運用を開始した。学生に選択を促した3つのプロジェクトは①前に踏み出す力（アクション）を育むことを目標とする「セルフ・セレクト・プロジェクト」（地域貢献活動参加型サービスラーニング）②考え抜く力（シンキング）を育むことを目標とする「オリジナル・プランニング・プロジェクト」（教員協働型サービスラーニング）③チームで働く力（チームワーク）を育むことを目標とする「春待ち小町プロジェクト」（地域団体協働型サービスラーニング）である。特にチームで働く力（チームワーク）を育むことを目標とする「春待ち小町プロジェクト」（地域団体協働型サービスラーニング）では、地域貢献ボランティア育成団体と協働してイベントを企画・運営する。前・後期各40時間の活動時間を利用して、7月の「春待ち小町マルシェ」を学外会場で、1月の「春待ち小町」を本学会場で開催する。この活動を通じて、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力といった、「チームで働く力」を身に付けさせ、評価は、協働する地域団体が行う。2014年度からは、2年次履修者を対象として、学びの場としての『街なか・サテライト（アクティブ・キャンパス）』を学外などに求め、本学科各コース専修者としてふさわしい専門性の保証と学生個人の能力アップを目指した『生活学科アクティブ・ラーニング・プロジェクト』を展開し始めた^{(1)～(6)}。こちらも評価は、協働する地域団体が行う。社会人基礎力を養うこれらのプログラムにおいていかに客観評価が行われるかが教科運営の重要なポイントの一つである。

キーワード：短大教育、協働型サービスラーニング、社会人基礎力育成、アクティブラーニング

1. はじめに

教科『地域貢献演習（入門・基礎・実践・応用）』は、短期大学での正課の授業で「社会人基礎力」を育むための実践的な取り組みにリンクした形で2013年度よりの新カリキュラムで設定したものである。1年次の2セメスタは必修科目として短期大学部生活学科（生活情報コース、食生活コース、ファッションデザインコース）の学生が全員履修する。

教科『地域貢献演習』を「協働型サービスラーニング」の場としていく目的と期待されるその効果としては、

(1) 短大の1、2年生を対象に実施することで、学生一人ひとりが自らにとって将来必要な学習の意味を確認し、地域や社会問題への関心を広げ、グループでの協同学習で基礎的な力をつける。

(2) 実践的な情報技術教育への導入教育としてモチベーションを高めるとともに、IT環境への理解を深め、より実践力の高い専門職養成を図る。

(3) 大学と地域団体との連携によるコミュニケーション教育プラットフォームを構築することで、効果的な協働型サービスラーニングのプログラム開発および評価体制を構築する、ことなどがある⁽¹⁾。

2. 街なかキャンパス『COCO キャン・タウン』

このプログラムは、教科『地域貢献演習（入門・基礎）』の必修科目としての取り組みを終えた2年次

の学生を対象として、2年次には選択科目となる同教科の後半（実践・応用）で「アクティブラーニング」プログラムの学びの場として提供するものである。本学科の各コースで提供する特徴的な『生活学科アクティブ・ラーニング・プロジェクト』プログラムの中の一つでもあり、本学科各コース専修者としてふさわしい専門性の保証と学生個人の能力アップを目指している。街なかキャンパス『COCO キャン・タウン（こころとこころでふれあい街なかキャンパス・タウン）』は、生活情報コースで提供するプログラムであり、主に、生活情報コース2年の学生が参加する。毎月1回、名古屋市中心部に近い観光名所『鶴舞公園』内に、ライブステージを中心にしたテント村を設置し、各テントをブースとして学生たちが構成する「チャレンジチーム」が企画運営するイベントを実施したり、学生の作品や調査報告などを展示する。2014年6月に第1回を実施し、学生が企画運営する子供向けゲームやフリーマーケット、「協働型サービスラーニング」として実施する各種イベントの案内ブースなどで、公園利用の観光客や地域住民などに向けたサービスを提供した。テントを利用する各ブースの企画や検討、制作などは、教科『地域貢献演習（実践・応用）』で設定された「チャレンジチーム」で活動展開し、毎月1回実施するこの街なかキャンパスで自分たちの企画を世の中に問う。実施後は、教科内で「振り返り」を行い、次

の『COCO キャン・タウン』で、再度試行することを繰り返す。2016 年 6 月には第 14 回の実施を数えたが、参加に関しては、自由とし、評価に関しては、地域貢献ボランティア協会の基準に照らし合わせて各回 20 点満点で立ち会う地域貢献ボランティア協会のメンバーにより、活動の様子や振り返り内容などをもとに行ってきた⁽⁵⁾。

3. 『チームで働く力』の評価

評価の対象とする社会人基礎力の「チームで働く力」(チームワーク)(多様な人とともに、目標に向けて協力する力)は、職場や地域社会等では、仕事の専門化や細分化が進展しており、個人として、また組織としての付加価値を創り出すためには、多様な人との協働が求められ、自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なるメンバーも尊重した上で、目標に向けともに協力することが必要である、ということから、次の 6 つの能力要素が設定された⁽⁶⁾。

- (1)「発信力」は、自分の意見をわかりやすく伝える力で、自分の意見を整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える能力である。
- (2)「傾聴力」は、相手の意見を丁寧に聴く力で、相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す能力である。
- (3)「柔軟性」は、意見の違いや立場の違いを理解する力で、自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する能力である。
- (4)「状況把握力」は、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力で、チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する能力である。
- (5)「規律性」は、社会のルールや人との約束を守る力で、状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する能力である。
- (6)「ストレスコントロール力」は、ストレスの発生源に対応する力で、ストレスを感じる事があっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する能力である。

4. おわりに

経済産業省は、「社会人基礎力育成に向けた 3 つのポイント」を次のように設定する⁽⁷⁾。

- ①学生自身による目標設定・プロセスデザイン
 - 1) 学生自身による目標の設定(活動の成果目標、自己の成長目標)
 - 2) 学生による“ゼロ”から始めるプロセスデザインと試行錯誤
 - 3) 学生の自律的な周囲との関係構築
- ②教員の支援的関与による主体的学習の促進
 - 1) 学生が主体的に活動できる環境の整備
 - 2) 学生の活動に対する支援的関与
 - 3) 教員の支援的役割に関する学びの促進
- ③カリキュラム化による継続性の確保

- 1) 地域社会・産業界・他大学・他学部など多様な関係者との組織的協力関係の構築
 - 2) 「実行」を意識したカリキュラムづくり
 - 3) 変化に対応し「継続」するための仕組の構築
- また、「社会人基礎力を育成する授業 30 選」の中に、本学科で展開しているようなタイプはなく、評価方法に関して独自性を探ることになる。

協働団体での主な評価基準は次のとおりである。

- (1)「発信力」
 - ・発言する。提案する。説明する。自分の意見。
- (2)「傾聴力」
 - ・人の話を聞く。質問する。改善する。
- (3)「柔軟性」
 - ・会話を続ける。進んで話しかける。落ち着いて行動する。方法の見直し。
- (4)「状況把握力」
 - ・様子を見て話しかける。素早く対応する。状況を見ながらの行動。状況説明。
- (5)「規律性」
 - ・敬語が使える。話し方のマナー。報告や連絡をする。ルールを守る。
- (6)「ストレスコントロール力」
 - ・やり遂げる。再チャレンジ。くじけない。相談する。

これらに基づき各個人を把握しながら総合評価をしている。他の取り組みで試みられている自己評価やそれとの組み合わせや他者評価の妥当性などについて今後も試行錯誤を進める必要がある。将来的には、在学時の評価と卒業後の職場での評価との追跡すり合わせも検討していく必要がある。

参考文献

- (1)川田博美、箕浦恵美子(2011): “協働型サービラーニングの実現に向けての教育システム構築の可能性”、名古屋女子大学紀要(人文・社会編)第 57 号
- (2)川田博美、箕浦恵美子(2012): “「協働型サービラーニング」をめざす教科の「社会人基礎力」を育成する教育プログラムとしての可能性”、名古屋女子大学紀要(人文・社会編)第 58 号
- (3)川田博美(2013): “協働型サービラーニングにより「社会人基礎力」養成をめざす教科における「選択パターン」の導入”、名古屋女子大学紀要(人文・社会編)第 59 号
- (4)川田博美、稲吉由味子、千葉みどり(2014): “「社会人基礎力」の育成を目的とする教科『地域貢献演習』の展開”、日本教育情報学会 第 30 回年会演説文集
- (5)川田博美、稲吉由味子、千葉みどり(2014): “短大における街なかキャンパスでのアクティブラーニングの試み”、教育システム情報学会第 39 回全国大会講演論文集
- (6)川田博美、稲吉由味子、千葉みどり(2015): “「社会人基礎力」育成のための「協働型サービラーニング」の実践”、教育システム情報学会第 40 回全国大会講演論文集
- (7)経済産業省(2014): “「社会人基礎力を育成する授業 30 選」実践事例集”、経済産業省